

宍道湖の水草分布調査

(宍道湖・中海水産資源維持再生事業)
岡本 満・石田健次・勢村 均

1. 研究目的

近年、宍道湖では糸状藻類のシオグサ、沈水植物のオオササエビモやツツイトモが増加し、ヤマトシジミ（以下「シジミ」と呼称する）漁の妨げになるだけでなく、シジミそのものへの影響が危惧されている。このため、オオササエビモ、シオグサ、ツツイトモの分布状況等ならびにツツイトモ殖芽の生態について調査した。

2. 研究方法

(1) オオササエビモの分布状況

6月～12月にかけて毎月1回、湖岸を車で周回し、目視により湖面に出現したオオササエビモの分布場所を調べた。

(2) オオササエビモの現存量

8月23日、25日に車で周回して目視により調べた(算出方法は平成24年度年報参照)。

(3) シオグサの分布状況

5月下旬～10月下旬にかけて、調査船かしまを用い、湖内9定点の水深1.5mと2.5mの湖底で有刺鉄線を巻き付けた鉄枠を50m曳航して、有刺鉄線枠に絡まったシオグサの量を「なし・少量・多量」の3段階で評価した。

(4) ツツイトモの分布状況

シオグサ分布調査で有刺鉄線鉄枠曳きの際に採集されたツツイトモの有無を調べた。

(5) ツツイトモ殖芽の分布状況と塩分適性

2月上旬に宍道湖岸各所の底泥からツツイトモ殖芽を集めた。集めた殖芽を0psu、2psu、4psu、6psu、8psu、10psuの塩分に調製したコニカルビーカー内に静置し20℃の恒温器で飼育観察した。

3. 研究結果

(1) オオササエビモの分布状況

6月に湖面に出現し、8月～9月に沿岸全域で帯状に繁茂したのち、10月頃に葉から枯死

が始まり、12月にはほぼ消失するという、これまでと同様な季節的消長がみられた。

(2) オオササエビモの現存量

全体で1,488トンと推定され、平成24年の調査開始以来最多となった。

(3) シオグサの分布状況

5月～7月の生長期は秋鹿・大野、玉湯、宍道地区の水深約1.5mで多量に確認され、8月に一度減少したが、9月に初夏よりも少ないものの、再び確認されるようになった。これらは例年の傾向と同様であった。

(4) ツツイトモの分布状況

4月から主に水深3m以浅の湖内全域で分布が見られたが、北岸では水深4m付近でも生育が確認された。南岸ではオオササエビモのパッチ状群落の間を隙間なく埋めるほど繁茂していた。また、8月以降は切れもが多く出現し、オオササエビモの群落にからみつく様子が観察された。

(5) ツツイトモ殖芽の分布状況と塩分適性

湖岸一円の湖底から殖芽を確認した。殖芽は目の粗い砂よりは砂泥または泥に多い傾向が認められた。殖芽からの発芽は塩分濃度が低いほど早く発芽率も高かったが、0psuでは飼育開始後1ヶ月を過ぎると草体が白化する現象が見られた。

4. 研究成果

調査で得られた結果は、宍道湖・神西湖調査研究報告会及び宍道湖に係る水草対策会議で発表した。